

【南区】令和元年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 6 月 7 日（金） 午後 2 時 35 分～ 3 時 30 分
場 所	南区役所 6 階 特別会議室
出席者	<p>【座 長】 遊佐大輔議員</p> <p>【議 員：3 名】 仁田昌寿議員、渋谷健議員、荒木由美子議員</p> <p>【南 区：26 名】 松山弘子区長、富井孝副区長、 北川寛直福祉保健センター長、 永木宏一郎福祉保健センター担当部長、 水谷俊之土木事務所長、小出健消防署長（災害対策担当部長）ほか関係職員</p>
議 題	令和元年度個性ある区づくり推進費 執行計画等について
発 言 の 要 旨	<p>【荒木議員】 みなみ減災推進事業の防災啓発事業に「地域での工夫した取組等を紹介するリーフレットを作成し、防災意識の向上を図ります。」と書かれていますが、これは、どれくらいのボリュームのリーフレットを作って誰を対象に配布するのでしょうか。</p> <p>【野坂総務課長】 イメージとしては情報誌「キラリ」の防災版です。ご近助講座でも使えると思いますし、様々な場で活用していきたいと思っています。</p> <p>【荒木議員】 はい、わかりました。あまり少ない冊子数だと、見る人が限られてしまっていますが、「キラリ」だったらいいですね。是非お願いしたいと思います。</p> <p>認知症の啓発ですが、このプログラムは、認知症の早期発見や早期診断につながるきっかけをつくるので良いのですが、今問題になっているのが、高齢者の交通事故です。県警のほうでも、教習所に行ってもらったことをやっているみたいですが、認知症だけではなくて、動体視力だとか判断力だとか機能的にも、一定年齢になったら限界があると思うのです。だから、これとセットでできるかどうかは分からないですが、例えば免許証を返上するための相談コーナーみたいなものを県警と一緒にできないですか。</p>

発言の
要旨

【小栗高齢・障害支援課長】

先生からご意見頂きました件については、持ち帰らせて頂いて、できるかどうか検討して参りたいと考えております。

【荒木議員】

家族が言っても聞かないので、専門家が、「あなたの運動能力は落ちているから自動車の運転はやめなさい」と言わないとだめだと思います。自分も年齢になったら絶対やめようと、今は言い聞かせてますが、免許証を持っているとついつい乗ってしまうので、今だからこそ働きかけるような工夫を考えていただきたいと思います。

それから、何回かお聞きしていますが、浦舟の国際交流ラウンジで、ずっと共進中学校のお子さん達を含めて行っていた日本語支援事業ですが、ボランティアさん達からすると、なぜやり方を変えたのかと、まだ困惑しているようです。予算的には、やり方を変えて計上されていますが、共進中学校以外のお子さんはどうするのかということで、ボランティアさん達は、自主的に行うとおっしゃっています。ただ、その運営の仕方も色々あるようで、まとめられないという話も聞いています。コーディネーターと国際交流ラウンジとがうまくタイアップして、共進中学校以外のお子さんにも間口を広げる工夫はできると思うのですが、この点はどうか。

【小田川学校連携・こども担当課長】

ありがとうございます。各学校でどのような形で実施しているかにつきましては、確認していきたいと思っております。今年度は、地域振興課が所管となりますが、ボランティアさんの研修等、意見交換できる場も設けておりますので、そういった場も活用して参りたいと思います。

【荒木議員】

よろしく申し上げます。

児童虐待予防事業のこんにちは赤ちゃん訪問では、主任児童委員会合同研修を実施し、相互の活動を理解すると書かれています。児童虐待で悲惨な報道がある度に思うのですが、情報をどう共有するかというのが、一番難しく、やはり個人情報伝わる部分と伝わらない部分があるので、ここをもう少し踏み込まないと、児童相談所であっても、実際に面接できないなどのハードルがあって大変だと思うのですが、どのように研修していくのか、もう少し詳しくお伝え頂けますか。

【戸矢崎こども家庭支援課長】

今回の研修は、まず顔の見える関係を作ろうということで、最近の子育て状況と、訪問員さん、主任児童委員さんができることというテーマで、

県立保健福祉大学の北岡先生をお呼びして、初めて研修会を行います。気にかけて頂くことのきっかけを学ぶことと、地域の同世代の活動者同士が初めて一堂に会することになります。まずは、顔の見える関係づくりということになりますが、その際に情報をどう把握して、区役所にどう伝えて頂くのか、ご説明する機会だと思っています。

【荒木議員】

最近の子育て事情は難しく、例えば、赤ちゃんが生まれて家に帰ってきてても近隣の人達に分からないようにしていたり、引っ越してきてても全然ご近所に挨拶しない、などということが当たり前になっているようです。まず、そういうハードルを少しでも下げてもらえるようなことをやって頂ければと思います。地域に頼ることは大事ですし、そういう点では、南区のおじちゃんおばちゃんたちは、皆ウェルカムな人が多いので、隣近所で助け合える環境にありますよ、という情報発信を是非やって頂きたいと思っています。

それから保育園応援隊について、ありがたいと思うのですが、園外保育がものすごくハードルが高くなっていて、この間も、子ども2人に保育士さん1人位付けているなど、現場が一番混乱していると思うのですが、お子さん達の安全をどのように配慮しているのかお話し頂けますか。

【長門こども家庭支援課担当課長】

昨今、保育園の活動について、とても注目されておりますが、保育園応援隊につきましては、近隣の方々に愛される保育園ということで、皆で見守って頂けるように、清掃活動をしたり、収穫祭にお呼びしたりしながら、関係を作っています。散歩に関しましても、近隣の方々の見守りということで大変ありがたく思っております。保育士不足という問題はありますが、園外保育については、保育士をきちんと配置しまして、お散歩の際の安全確認、ルートの確認など散歩の配慮について、自分の園だけではなく、近隣の園の保育士同士で相談しながら対応しております。

【荒木議員】

学校の場合はスクールゾーン協議会があるので、危険だから直してくださいと要求できますが、保育園はそういう機会が無いので、危ないから最低限ガードレールが欲しいとか、一時停止が欲しいとか、ドライバーさんに向けての発信すべき情報を共有して、役所同士ですので、土木事務所も前向きに検討していただきたいと思っています。是非お願いします。

最後に、地区別情報収集事業ですが、すごく画期的で、地区懇談会などでも資料を出して頂いたと思います。整理した後が大事だと思うのですが、何に使うのか教えていただけますか。

発 言 の
要 旨

発 言 の
要 旨

【黒田区政推進課長】

平成 29 年度に作成いたしました第 1 版は、地区懇談会等でもご活用頂きましたし、地区社協や地域ケアプラザでも参考にして頂いています。お求めがある場合には、積極的にお持ちするとともに、地区担当者とも十分に共有し、様々な場面でご活用頂けるように工夫していきたいと考えております。

【荒木議員】

私も見せて頂いて、自分の地域のことがすごくよく分かりました。皆さん、住み心地が良いから出ていかないで、高齢化するという状況も見えて非常に有り難かった。こういう重ね合わせたデータで見えることがあったら、またお願いしたい。地区懇談会では、地区によっては、若い人たちも色んなことを取り組んでいるという発表もあるのですが、その地区の中で完結してしまっているのも、他の地区の人からは見えない。そういうのもうまく、区の便りなどに載せてもらうといいのかなと思います。あまり刺激するのも良くないので、書き方が難しいのですが、是非その点もよろしくをお願いします。

【仁田議員】

青少年育成事業の中の学校と地域の交流応援事業では、対象校が 4 校となっていますが、この 4 校を選定した背景や理由、基準は何でしょうか。

【小田川学校連携・こども担当課長】

こちらにつきましては、それぞれの学校からご意見を頂戴いたしまして、手を挙げていただいた 4 校を選定しております。

【仁田議員】

わかりました。まだ始まったばかりですが、当初の予定からするとどんな感じでしょうか。

【小田川学校連携・こども担当課長】

この事業は、昨年度から実施したもので、主に横浜総合高校と地域の交流の応援をさせていただきました。実施内容といたしましては、総合的な学習の時間で実施しております学校周辺の清掃活動を、地域と連携して実施いたしまして、区からは、清掃活動の PR のため、のぼりや腕章などの提供をさせていただきました。また、11 月のつながり清掃月間の一環として位置付けさせていただいております。合わせて、横浜総合高校の生徒に、地域の課題解決策をご検討いただくプロジェクト「横総生にオファーです」に区役所から「若者の食に係わる健康管理」と「子育て支援のしくみ

と活性化」の2点についてご検討をお願いいたしました。1月に開催されました発表会では、食生活等改善推進委員さんや、子育て支援拠点などの関係団体さんにも参加していただき、新たな連携や事業展開のきっかけとすることができたかなと思っております。今年度は横浜総合高校への物品提供はないのですが、連携の支援について、引き続き行っていきたいと思っております。

【仁田議員】

わかりました。今後しっかり検討をすすめていただければと思います。

みなみ減災推進事業の災害対策本部運営強化と地域防災拠点の運営強化事業に関連してですが、地域防災拠点と災害対策本部との大地震発災の時の情報のツールは、どういうものがあるのでしょうか。

【野坂総務課長】

今のところは、無線での通信が主になるであろうと考えています。

【仁田議員】

無線とは、防災行政無線のことですか。

【野坂総務課長】

はい、その通りでございます。電話もありますので、電話が繋がれば電話ということも考えています。

【仁田議員】

各防災拠点が連携を取り出したときのシミュレーションはしているのですか。

【野坂総務課長】

全拠点一斉に連絡のやりとりをするところまでは、まだ行っていません。

【仁田議員】

それは、物理的に可能な構造ですか。

【野坂総務課長】

物理的には可能です。

【仁田議員】

そうすると、それぞれの拠点と区との連携が滞ることはない、という理解でいいですか。

【野坂総務課長】

実際に発災してどういう状況になるか分かりませんが、今ある機材としましては、そういうことができることになっています。

【仁田議員】

わかりました。今後、改めて議論していきたいと思っております。

発 言 の
要 旨

先ほど荒木議員からもありました 18 ページの地区別データですが、昨年度に、配布していただいて、とても有益な事業だと私も思っています。ただ、昨年の地区懇談会で、どう活かされるのかなと意識しながら伺っていたところ、冒頭の発表の中で少し参照はあったものの、データの活用は、あまり見られなかったような気がしたのですが、どのように使われたのでしょうか。

【黒田区政推進課長】

地区懇談会は時間が短いこともあり、資料として活用された事例は確かにございませんでしたが、平成 29 年度末に地区別データを各連合に御提供した際、防災の被害想定などに非常に注目が集まりました。昨年度の地区懇談会は、防災のテーマが多かったのですが、データを肌身に感じていただき、議論しなければならないとお感じいただいたことが、地域でのデータ活用の第一の成果と考えてございます。

【仁田議員】

地域の方に地域の状況をよく理解していただくことは、とても大事なことだと思いますが、このデータを作成することのもう一つの大きな意義は、今後の区づくり推進費のあり方や南区のこれからを考えるにあたっての、基礎資料とすることだと思います。過去に、私も市全体のビジョンなどを考えた時に、基礎資料を基に、色んなことを考えたのですが、今日の区づくり会議のような場や、今後の南区のビジョンの策定にあたって有用に活用されることが、一番大事なことだと思います。地域でこういったものを活かすことは、フォローアップしないとなかなか難しいことだと思いますが、このデータは今後のプランを考える際の大きな基礎資料であるということが、先ほどのご説明の中になかったので、その点について是非注目していただければありがたいと思います。

【黒田区政推進課長】

実は、平成 29 年度に作成した第一弾については、並行して改定を進めておりました南区都市計画マスタープランに反映させていただいております。また、これから第 4 期地域福祉保健計画を策定していきますので、この地区別データ集を今後どのように充実、活用していくか、必要な情報や活用する場面について、福祉保健センターの各課からも色々と意見を聞きながら取り組んでいきたいと思っております。

【渋谷議員】

みなみ減災推進事業の自助・共助支援事業で、139 万円から 735 万円に

発 言 の
要 旨

予算額が増額されていますが、これはマップを作成し配布するためという理解でよろしいですか。

【野坂総務課長】

はい。その通りでございます。

【渋谷議員】

他の家具転倒防止やガラス飛散防止の事業は前年同と書いてありますが、実態としては、申込みがあるのに予算がないという状況なのか、それとも年にこれぐらいしか申請が来ない状況ということですか。

【野坂総務課長】

平成 30 年度は、かなりたくさんの申請をいただきました。ただ、過去におきましては、少し予算が残ってしまったということもございます。家具転倒防止の補助やガラス飛散防止の補助につきましては、ほぼ毎年予算計上させていただいている額どおりの執行を見込んでございます。参考までに、件数ですが、昨年度は家具転倒防止の器具の補助 49 件。ガラスの飛散防止は 26 件お申込みをいただいております。前年度と比べますと、それぞれ倍増しております。

【渋谷議員】

49 件と 26 件というのは、執行した件数ですか。お断りしたということはないのですか。

【野坂総務課長】

はい。お断りした例はございません。

【渋谷議員】

今年、ガラスの申請が昨年度以上に来たら、それはどういうことになるのでしょうか。お断りしないのですか。

【野坂総務課長】

とても大切な事業ですので、区づくり推進費の中で対応していきたいと考えています。

【渋谷議員】

はい、わかりました。よろしく申し上げます。

区庁舎環境等改善事業にあるバスの乗継広報が、昨年 60 万円から今年 104 万円に増額しています。一般的に事業費は、だんだん減っていくのはわかるのですが、なぜ事業費が増額になっているのですか。また、この事業はいつまで継続していくのですか。

【黒田区政推進課課長】

半年に 1 回ちらしを発行する想定で予算を計上しておりますが、ダイヤ改正の都合で、予算を執行できる期間内に 2 回発行できないことがござい

発言の
要旨

ました。令和元年度予算でも予定通り、年に2回分計上していますが、回数があるため多くなったということではございません。南区は、人口は現在横ばいの状態ですが、いわゆる社会増、転入の方が一定程度ありますので、世帯の入れ替えに向けて、当面は、引き続き定期的に広報をしていく必要があると考えております。

【遊佐議員（座長）】

もう一つ、渋谷議員からの質問でありました、この事業をいつまで継続するのかということについては、どうですか。

【黒田区政推進課課長】

バスのアクセスについての区民の皆様の需要を見極めて、必要な期間を見定めていきたいと考えております。

【渋谷議員】

あと、この資料の中には無いことですが、昨今、悲惨な事故の背景としてひきこもりというのが、かなり大きな社会問題になっていますが、どういふ方がひきこもりと捉えられ、どうやって把握をしているのでしょうか。報道等によれば、日本全体で300万とか400万人とかいう数を把握しているということは、どこかで積み上げている訳でしょうから。もしそうならば、南区にひきこもりの人はどのくらいいるのか把握できているのでしょうか。また、ひきこもりの方への対策、対応、現状認識がわかれば教えていただければと思います。

【永木福祉保健センター担当部長】

南区のひきこもりの状況というのは、詳細に関しては分かっておりません。平成29年度にこども青少年局が、横浜市の子ども・若者実態調査、市民生活実態調査を行っております。その調査によりますと、15～39才の推計が約1万5千人。これはアンケートに基づいての調査結果の出現率1.39%から推計しています。それから40～64才の推計は約1万2千人、これは出現率0.9%と聞いております。これを単純に南区の人口に割り当てて考えてみることはできるかも知れませんが、今は、そういう数字は出しておりません。対応についてですが、生活支援の関係と高齢・障害支援とこども家庭支援というところで、それぞれケースがあった場合に適切に対応させていただいているところでございます。

【渋谷議員】

子どもという枠と高齢者という枠と福祉的な枠、そういう縦割の中に、ひきこもりの方の横串があつて、子どもからずっとひきこもっている大人もいる訳だし、障害があつたことが原因でなっている人もいる訳です。これは区としての対応はなかなか難しいかも知れないけれど、もう少し地域

発 言 の
要 旨

と会話をして、あってはいけないような悲惨な事故が無いよう、もう少し実態を把握されたほうがいいのではないかなと思います。これは、意見としてお話しさせていただきます。よろしくをお願いします。

【遊佐議員（座長）】

はい、ありがとうございます。座長の私からすみません。

まず、商店街のプロモーションビデオはどこで見られるのか、場所はもう決まっていますか。

【姫浦地域振興課長】

現在は、JCOMで放送しているのと、区庁舎1階のホールで流しております。あとはYouTube等でも見られるようになっております。また、今後は、銀行の窓口とか市営バスなどで動画を流せるようにしていければと考えております。

【遊佐議員（座長）】

ありがとうございます。前に弘明寺商店街からお願いされて、桜まつりの広報をやってくださいと、交通局に頼んだところ、初年度は地下鉄の弘明寺駅、蒔田駅、吉野町駅にパンフレットを置いてくれたのですが、この地域の人にはわかっていることなので、これらの駅に置いていただいても、ほとんど意味がないと思い、それ以来、京急さんにもお願いしたところ、今は泉岳寺とか、横須賀でもパンフレットを置いてもらって、東京からも人が来るみたいな状況になったらしいので、できるだけ南区以外の人とか、市外にも発信できるように、是非働きかけをしてもらいたいと思います。

【姫浦地域振興課長】

そうですね。先生のおっしゃるとおり、もっと区外から来訪される方、遠くから来られる方へのPRが大事だと思っています。京急は、動画は無かったと思いますが、他の電車等についても、予算を確保してありますので、努めてまいりたいと思っています。

【遊佐議員（座長）】

ありがとうございます。

次に、津波スピーカーについて、区役所と消防署に防災スピーカーはいつ付くのでしょうか。もう話は来ているのですか。

【野坂総務課長】

中期4か年計画で、市全体で4年間に190か所防災スピーカー等を増設することとしております。南区では、大岡小学校と井土ヶ谷小学校に設置

発言の
要旨

されると聞いております。区役所につきましては、南吉田小学校にスピーカーが既に付いているので、あまり近い所では付けられないと危機管理室からは聞いております。

【遊佐議員（座長）】

わかりました。

アフリカ開発会議関連とラグビーワールドカップ関連の事業があまり見えなかったのですが、何かありますか。

【姫浦地域振興課長】

ラグビー関係ですが、市民局の区配事業としてラグビー関係の機運醸成の事業があります。まず、南区としては、南まつりの会場でブースを作ってパネル展を開いたり、実際にボールを触って体験したり、ちょっとしたグッズを配りたいと思っております。6月下旬には、1階の多目的ホールで、各区を巡回するパネル展を行いたいと思います。

【遊佐議員（座長）】

よろしく申し上げます。